法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-10

五体他の身体部位から連想される英語動詞群分析

ITO, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編
(巻 / Volume)
108
(開始ページ / Start Page)
213
(終了ページ / End Page)
225
(発行年 / Year)
1999-02
(URL)
https://doi.org/10.15002/00005458

Hosei University Repository

五体他の身体部位から連想される英語動詞群分析

伊　藤　幸　一

は　じ　め　に

五体とは，日本語で，頭と両手と両足のことで，胴体から，上に頭部，横に上肢，下に下肢が，大枝の如く出ている様を形容，それ故，ときに，身体全体をも意味する。本稿は，それぞれの部位の動きや機能を中心に分析を進めるが，実は，既に，粗方，済んでしまっている。

まず「LOOK と SEE を焦点とした語彙場の意味と分析」では，視覚としての目の機能「見る」を考察，心の内を「見せる」ことも指摘した。そして「五感他の精神生理的機能を連想させる英語動詞群の意味分析」では，その他の五感も考慮，感受した刺激が反射的に身体内変化をもたらし，表情として，特に顔，それも目に出ることを示した。

前肉体行動とも呼べる表情は，例えば「目は口ほどに物を言う」けれど，その口を介しての（前）言語行動が恐らく伴なう。そこで，両者の関係も含めて「SPEAK と TALK を代表とする意味場の分析」が別途になされ[1]，更に，反射的だけでなく，直接的，間接的な「発声・発言・発話に代表される言語行動にかかわる一連の英語動詞群分析」もなされた。

その口は，また，咀嚼にも関与，その可動性と破壊力故に「口・手・足から連想される英語動詞群の意味分析」での，人間の基本的所作・動作等の考察でも取り上げられた。一方，足の機能は「動くことを連想させる英語動詞群の意味分析」で，手は「動かすこと及び物理的変化を連想させる英語動詞群の意味分析」で，更に検討された。そして，この目と口と手足の動きは「好意的及び非好意的だけでない精神的・行動的反応や態度を連想させる英語動詞群分析」での，人の触合いにおいて具現されるのを見る。

そこでは，単純な好き嫌いが，複雑な言語・肉体行動へ直結するのかどう

Hosei University Repository

か，つまり，いつの間にか勝ち負けが絡み，生存競争までもが絡むと，人間性に基づく行動が主題となり「好意的及び非好意的関係・反応を連想させる英語動詞群の意味分析」を踏まえ，それとは背腹の関係にある「精神的変化を連想させる英語他動詞群の意味分析」に戻らざるを得ない。

後者の分散・拡大版「精神的変化だけでなく物理的・行動的変化を連想させる一連の英語他動詞群分析」は他方「KNOW 及び THINK に集束する意味場の構造分析」「DO に誘引される英語動詞群の意味分析」と，この順で，言わば，梃子の原理にも似た，人間行動の力点・支点・作用点に与かり，今迄記した全ての分析を席捲することになる。

以上，該当する分析を，相互関係を示すことで整理してみたが，視点も新たに総括するだけでも意義はある。が，本稿は，重複する語彙は極力，控えて，追記による補充・補強だけでなく，僅かであれ，新たな展開を得たい。

頭　部

衣服から，大凡，いつでも露出している。首に支えられているのが頭で，その中空は脳が満たし，上部と後部は，それを守るべく頭髪が覆い，前面は顔で，目や鼻や口を持つ。そして，側面には耳がある[(2)]。

《頭・髪・首》 頭の内側の内的世界が，知識を，言語と共に獲得するのは ACQUIRE，内在化させるのは INTERNALIZE，同化するのは ASSIMILATE である。技術に関するならば，思いのままにする MASTER が適用され，その際，潜在能力を引き出すのは EDUCE である。

この学習過程は，整理・整頓そのものである。新たな物は，関連ある既知の物を REMIND 思い起こさせ，JUXTAPOSE 並べることで比較・対照し，評価し，LOCATE 位置を定め，PERMUTE 並べ換えるのであるが，例えば，間隔を置いて並べるのなら SPACE，重ならない様に互い違いにならば STAGGER である。

整列させるのは MARSHAL，横にならRANK，縦にならFILEで，それも大きい順なら SIZE，アルファベット順なら ALPHABETIZE である。そこでは，表にする TABLE，TABULATE，LIST が，ときに有効であろう。更に，部屋を仕切る様に区分するのは PARTITION，細かくは SECTION で，SEGMENT は卵割を連想させる。益々，知識が増えると共に，

Hosei University Repository

複雑になり，体系化するのはSYSTEMATIZE，組織立てるのはSTRUCTUREである。

一方，より複雑な思考となると，分かり易くすべく，単純化するSIMPLIFYを求め，一括して扱うBRACKET，一般化するGENERALIZE，類型化するSTEREOTYPEがなされる。そして，理論化するTHEORIZEは，仮説を立てるHYPOTHESIZEを含み，公式化するFORMULATEにつながって行く。対極的に，実例で示すのはEXEMPLIFYで，特記するINDIVIDUALIZE，列挙するPARTICULARIZE，詳述するSPECIFYを伴なうか。

また更に，理性は，因果関係も求めたがる。原因などを何かに帰するのはASCRIBE，それも，むしろ属性と見るのはATTRIBUTEで，割り当てるASSIGNも適用され得る。更に，誰かに名誉を与え，お蔭であるとするのは(AC-)CREDIT，逆に，汚名を着せるのはIMPUTEであろうか。ついでながら，恩があるのはOWEである。

頭脳は，更に能力を発揮，夢を見るが如く，VISUALIZE映像化もする。想像するのはIMAGE，IMAGINE，更にENVISAGEも挙げておこう。絵と像その物を連想させるPICTURE，FIGUREも加えられ得る。視覚にかかわるSEEも，想像で，目にすることになる。

以上の様に，理解したり説明するINTERPRETが内的世界の性で[3]，傾向があるTEND，INCLINEが適用され得る。もうひとつ，それも重要な性は，言語自身も準備している，準えるLIKENではないだろうか。それも，擬人化するPERSONIFYで，ときに，個人に置き換えるPERSONALIZEも同意となる。

その上で，個人的に，能力を享受して，空想的に考えるのはROMANTICIZEで，感傷的にならSENTIMENTALIZE，哲学的にはPHILOSOPHIZE，精神的にはSPIRITUALIZE，神話的にはMYTHOLOGIZE，MYTHICIZEである。そして個別に，理想化して見るのはIDEALIZE，偶像化してはIDOLIZE，象徴化してはSYMBOLIZEである。

この様にして，具体的な考えは，生き物の如く，浮かび上がりFLOATが，回りを巡ってREVOLVEが，そして定まらずROVE，WANDERが適用される程に，HOLDが適用されれば，その考えを保持し，TAKEなら，掴むことになる。そこでCATCH，GET，GRASPならば，その意は，推して知る

Hosei University Repository

べしであろう。

更に，内的世界は感情，つまり快・不快，喜怒哀楽，好き嫌いなどにもかかずらうが，ここでは，喜怒哀楽に一言触れれば良いだろう。該当する動詞群は数が少ない上に，疎らで，良く検討してみると，むしろ理性的であったり，肉体的，それも生理的，感覚的，表情的であったり，更に，行動的，それも言語行動的であったり，そして，好き嫌いに近いものもある。「精神的変化を生じさせる」意の他動詞群も，良く検討してみると，同様な事が言えた様に，やはり，その裏にあり，陰に隠れ，影なのであろうか[4]。

しかし，それを補い，この感情が，如何に全身的であり，視覚に訴えるか，を示すが如く，加熱・冷却，調味を含めた加熱料理，燃焼，液体・気体の活性・活動，更に，震動にかかわる一連の相互に交錯する語彙が，比喩的に適用されることを追記せざるを得ない。

内的世界の存在は，この様にして推察されるが，その中枢となる場所は，頭髪に覆われるか。髪が髭と同様に，草木の如く生えて伸びるのはSPROUT，伸びてモジャモジャになるのはBUSHである。もつれるのはTANGLE，MAT，捩れるのはKINK，ほつれ，もつれるのはRAVEL，絡み合うのはINTERTWINEであろうか。

手入れの有無にかかわらず[5]，ウェーブしているのはWAVE，カールするのはCURL，縮れるのはFRIZZLEで，CRISPもここに加えられ得るか。更に伸びて，垂れるFALL，FLOWに，戦ぎ，なびくFLY，STREAMが適用されることもあるか。ときに，怒髪天を突くのはBRISTLEで，極限においては先祖帰りでもするというのか。

長い髪なら隠れてしまう首も，頭を支え，その動きを左右する。頭を対象に傾けるのはTILT，下げるのはINCLINE，垂らし，垂れるのはHANGである。更に，目を伏せる意を持つDROOPに，目や頬が窪む意を持ち，肩も対象とするSINKも適用され，共に，俯く意となる。逆に，耳をピンと立てるPERKが適用されれば，元気を回復することになる。頭だけでなく，ときに，耳や鼻や目までもグイと上向きにするCOCK，頭をツンと反らすTOSS，それも女性なら，ときに，顎を引くBRIDLEの意図は分かるだろうか。頭を突き出すのはSTICK，OBTRUDEで，それも，頭突きをすることになればBUTT，BUNTである。

首は実際には伸びはしないが，しっかり見ようと，鶴の様に伸ばすのは

Hosei University Repository

CRANE，更に，物見高く首を動かすのはRUBBERNECKである。遅ればせながら，頭HEADは，先頭に立って頭を向けて進む意であり，それを対象にMAKEが適用されると，困難でも前進する意となる。

《顔・目》 一方，毛髪の生えていない前面の顔FACEも，同様に，顔を向ける，面する，あるいは立ち向かう意である。そこでABOUTFACEは，回れ右をすることになる。そして，それを対象にLOSEが適用されると面子をなくし，SAVEなら，その体面を保つこととなる。

その目鼻立ちFEATUREは，特徴づけたり，呼び物にする意を持ち，中でも目は特筆に値する。その目による視線行動はLOOK系とSEE系に分類され[6]，前者は，目あるいは視線を向けることが核で，その視線は生き物の様な動きをすることに気づく。

目あるいは視線を向けるのはDIRECTであり，投げ掛けるのはTHROW，FLING，チラッ，サッとはCAST，DART，FLASHで，走らすことになるのはRUN，SWEEPであろうか。ザッとはPASSで，活字の走り読みならSCAMPER，SKIMであろう。動きのある物を追うのはFOLLOW，逸らすのはAVERTで，下に向けるDROPも同意となる。一方，FALLは，SET，FIXそれにGLUE，FASTEN更にRESTと共に，ジッと見ることになる。キョロキョロするのはROVE，WANDERである。そんな活動的な生き物を，逆に，捕えるのはCATCH，GRIPで，風景などが出迎えるのはGREETである。

そんな目だからこそ，潤いが必要となるが，ときに，目が輝くのはTWINKLE，SPARKLEで，何らかの内面の変化を表わすか[7]。多くの場合，顔全体も明るく輝きLIGHT(-EN)が，更に，光を発するBEAMが適用され，微笑むことを意味するか。顔が横に広がるBROADENも適用され，口元には靨を作るDIMPLEが現われる状況となる。

そして，潤いすぎてか，涙が，急に浮かぶのはSTARTで，溢れて零すのはDROP，流すのはSHED，頬を伝う伝い方ではROLLも適用される。それを拭うのはMOP，DRY，嬉し泣きもあるが，ときに，顔全体に，暗くなるDARKENが適用され，塞ぎ込むMOPEが，更に，眉を対象に，顰めるKNIT，GATHER，驚いてならRAISEが適用される状況となる。目蓋がピクピクするFLUTTERは，ときに，口元や頬にも現われる。

《鼻・口》 涙は自由に出せなくても，鼻を啜るSNUFFLEは，啜り泣く

Hosei University Repository

意も持ち，更にSNIVELは空泣きする意まで持つ程に，鼻孔を広げるDILATEも，ときに伴なって，嘘泣きや，泣き真似は出来る。

口MOUTHは顰め面をする意を持つ程に，目の周辺だけでなく口元にも歪みは現われる。唇を対象に，捲り歪めるのはCURL，TWISTである。そして，押さえていた声が漏れるのはESCAPE，それも，弱々しい声で泣くのはPULE，思い切りワーワー泣き喚くのはBOOHOO，更に，目も顔も腫らすことになる，オイオイ泣くBLUBBERも敢えて挙げておこう。

一方，笑みの方も，目は，笑えなくても，口元で，歯を見せるだけで，笑っている様に見える程に，ニヤニヤと作り笑いするのはSIMPER，ニヤニヤ気取ってはSMIRKである。更に，声も加わって，ケラケラと高笑いするのはCHORTLE，ゲラゲラ馬鹿笑いならGUFFAWである。遅ればせながら，こちらも軽く，あるいは押さえて，鼻だけで笑うことも出来る。

本来，本能的であろう泣き笑いが[8]，ここまで来ると言語同様に学習したのでは，と思わせる。然為れば，続けて，喋ることにも言及せざるを得ない[9]。MOUTHは，声を出さず口だけで喋ることも含め，言葉を発する意も持つ。鼻を連想させるBREATHEは，囁く意で，顎JAWは，クドクドと喋る意で，頬CHEEKは，生意気を言う意である。

中でも特徴的なのは，口元が最も良く動くペチャクチャ喋ることであろう。内容的には下らない話で，PRATE，PALAVER，BLATHERをここでは挙げよう。唯，下らない話であることを強調するならTWADDLEである。ペラペラ早口で喋ると唾を飛ばすことになりSPUTTER，SPLUTTERが挙げられる。唯，ペラペラならPATTER，トウトウとはSPOUT，グチャグチャはNATTERである。

もうひとつ特徴的なのは，むしろ喉を連想させる，大声で怒鳴ることであろう。ここでは，まずはHOLLER，VOCIFERATEに加え，自然現象を連想させるTHUNDER，STORM，BLUSTER，更に，吠えるBARK，BAYも挙げられ得る。怒鳴り散らすのはRANT and RAVE，喧嘩して，がなり立てるのはBRAWLである。

周知の通り，口は，更に，飲食に，賞味に与かる[10]。MOUTHは，唇で擦り，口に銜え，口に入れる意も更に持つが，ここでは舌と歯に一言触れるだけになる。舌を対象にWAGは，慣用的には良く喋る意だが，その他も文字通り以外の意を持つ。舌を突き出すのはSTICK，巻き上げるのはCURL，唇

Hosei University Repository

を嘗めるのはLICK，上顎で鼓を打つのはTUTであるが，それぞれの意味が分かるか。そして，音を立てて飲食するのはSLURPである。歯で咬むBITEは唇も対象となる。また，丈夫な歯でガリガリと歯咬みするだけでなく，バリバリ食べるCHAMPもここでは挙げておこう。

胴　体

衣服に，いつも隠されていて，木なら幹，英語ではbodyだが，それは，ときに全身をも意味する[11]。表側は胸と腹，内側は五臓六腑が占めるが，ときに，お互いを意味しあう。裏側は肩と背と腰からなる。

《喉》 何処からが胴体か，それも身体内では，の問題は別にして，ここでは，口と鼻の合流点である喉と，出来るだけ，その奥を伺わせる事，を話題にしよう。

喉も目に負けず劣らず，潤っている必要がある。ペチャクチャと大声で喋り過ぎると，口角で，唾も泡立つのはFROTH，喉も可笑しくなって，咳払いするのは，喉を対象にCLEARであるが，しきりに乾咳をするのはHACKである。鼻も，ある程度潤う必要があるが，通りを良くしようと，吹くのはBLOW，軽くはWHIFFあるいはPUFFである。

逆に，緊張のしすぎか，潤いすぎて，涎を垂らすのはDRIBBLEで，更に，目に対する涙同様に，口に対してWATERも適用される。飲食物を飲み込むSWALLOWは，言葉や感情に加え生唾も飲む。胃STOMACHも飲み込む意を持つ。酒などをガブガブ飲むのはQUAFF，TOPE，急いで咬まずに飲込むのはBOLTである。

一方，押し込んでも飲み込めず，吐きそうになるのは猿轡の意も持つGAGである。胃を対象にTURNはムカつかす意を持つが，一度収まった物を，吐き出すのは，ここではPUKEを挙げておこう。一般的に，逆流させるREGURGITATEも適用されるが，これは，嘆息や呻き声を立てることも含めてHEAVEが適用される説明になる。吐く事は別にして，嘆息や呻き声を出させたり，涙や笑いを引き出すFETCHとは様子が異なるか。

《胸・腹》 胸BREASTは平泳ぎを連想させるが，立ち向かった上，押切って進み，ゴールのテープを切る意を持つ。一方，胸部chestに鳥か蝶でも居るかの如く，羽ばたきするFLAPが適用されると，ハラハラ，ソワソワする

Hosei University Repository

意で，心臓 heart を示唆しているのであろうか。

それを連想させる HEARTEN は元気づけ，元気になる意を持つ程に，この辺りに元気の住処があるということか。心は何処にあるのか，という古くて新しい問題提起がなされる由縁であろう。そこで，これを対象に BREAK が適用されると，文字通りではなく，むしろ，人の元気をなくさせる意である。CROSS ならば，十字を切ることになる。

腹BELLY は脹らむ意を持ち，飲食直後か，肥満を連想させる。ついでながら，太るのは FATTEN，痩せるのは SLIM，SLENDERIZE である。そして BELLYACHE は，腹がキリキリ痛む GRIPE と共に，ボヤク意を持つ。脇腹 sides に対して HOLD，SHAKE，そして SPLIT，BURST までもが適用されて，抱腹絶倒する意となることをつけ加えておこう。

胃腸 GUT は根性の意も持つが，貪り食う意でもある。元気を出すには，まずは腹拵えから，と考えられるし，この辺りにも元気の住処があるのだろうか。気力や体力を対象に，呼び集め並べる SUMMON，RALLY，MARSHAL が適用され，元気を奮い起こす意となるが，何処に集めると言うのだろうか[12]。かと言って，腸 bowels に MOVE が適用されると，元気でなくて，通じがつく意となる。

《肩・背・腰》 肩 SHOULDER は，肩で押したり，物を背負う意を持つ。ついでながら，荷を積み，負わすのは LOAD，LADE 更に，心の重荷を連想させる BURDEN である。また，肩を対象に SHRUG は，あの，周知の，肩を竦めるジャスチャーを思い起こさせ，SINK は既述した通り，元気のなさを示すことになる。

胸を張れば背筋が伸び，健康的であるが，一般的には前に屈むことが多い。背中を丸めるのは HUMP で，HUNCH は肩にも適用され，SLOUCH は肩や首も対象となって，前屈みになる意を持つ。その意では，腰もかかわっての STOOP 更に INCLINE をここに加えておこう。

腰は，立っても座っても要をなし，バランスを保つ[13]。BALANCE が適用されるが，筋肉を協調させる COORDINATE を含む。DROP が適用されると，ガックリ膝をつき，バッタリ倒れる FLOP までも意味し，SINK なら，ヘタヘタと腰を下ろし，深々と身を沈める SUBSIDE どまりである。寄り掛かる RECLINE は，LOUNGE と共に横になる意も持つ。そして，大の字に俯して，へたばるのは FLATTEN であるが，その際，寝返りを打つ ROLL，

Hosei University Repository

TOSS も，腰の機能であることが分かる。

四　肢

上肢は，胴体の両肩から腕，肘，手と伸びるが，少なくとも手首から先は，衣服から露出している。下肢は，腰から股で分かれ，脚，膝，足へと伸びる。共に関節が多く，周知の通りの動きをする。

《上肢》 器用な手の複雑な動きも，広範に渡って，言ってみれば PULL 系と PUSH 系とに分類・整理され得るが[14]，ここでは，むしろ，正に器用な手元から見直そう。

指を対象にする時は，大凡が人指し指のこと，指さすのは POINT で，INDICATE は手での場合もあるか。鍵状に曲げるのは CROOK，中指を重ねるのは CROSS，そして，両手の親指を突き重ね，回し合うのは TWIDDLE，親指を鼻に付け，他の指を広げる様には，親指自身を意味する THUMB が適用されるが，いずれも，その意図を汲み取れるだろうか。親指と小指を張った長さを単位にして測るのは SPAN である。

肌が痒い時に，爪で掻くのは SCRATCH であるが，掻き集める意をも持つ。耳や鼻を，ほじくるのは PICK，ついでながら，栓をするのは PLUG，STOPPER，詰めるのは STUFF であるが，どれも，突っ込む STICK が前提となる。指先からであろうが，ポケットなどに手を突っ込む DIP も，汲み出す意を持つ。ここで PICK が適用されると，スリを働くことなる。

この様に見えない所を手探りするのは FEEL，暗中模索するのは GROPE で，FUMBLE も加えられ得るが，むしろ，不器用に弄くり回すことを暗示，ときに，視覚も関与するか。たとえ移動が伴なっても広範には及ばず，引っ掻き回して捜すのは RUMMAGE，SCRABBLE で，くまなく捜す RIFLE につながり，更には，後述する「掻き集める」へとつながって行く。

触れるにしても，指先などでサッとは SWEEP，軽く叩くのは DAB，馴れ馴れしく，手荒くは PAW である。指 FINGER にも触れたり，弄くる意がある。一般的には TOUCH が適用されるが，ピアノや道具・機械，飲食物や仕事，更には絵や文が対象となると，それなりの意となる。一方，巧みに扱うのは HANDLE で，MANIPULATE，MANAGE 更には TREAT も加えられ得るか[15]。

Hosei University Repository

手 HAND は器用にもかかわらず，大凡，掴んで渡す意を持つだけであるが，その手で，暇に任せて弄ぶのは TWIDDLE，おもちゃにするのは TOY，いい加減にあしらうのは TRIFLE である。修理の為に，下手に弄くり回す TINKER は良くあること，挙句には，部屋など取り散らかす CLUTTER，ごちゃまぜにする SCRAMBLE，JUMBLE につながって行く。

掌 PALM が，その形質から，撫でたり，握ったり，隠す意を持つことは理解できる。小さければ指先でも可能であるが，紙などを丸めるのは WAD である。両掌を合わせて，叩く，擦る，は別にして，碗状にして，片手でも可能であるが，頬杖を突く，あるいは水などを掬うのは CUP である。自分の他方の手あるいは他の人の手を，ギュッと握り，揉み手をするのは WRING で，その真情は伝わるか。手を繋ぐのは LINK，繋ぎ方によっては LOCK が適用されるが，腕なども絡み得るだろう。

しっかり握る CLENCH も，空を握れば握り拳を作ることになる。それを人前で翳し，意図を込めて振るのは SHAKE である。そして殴るのは，それも強くは，ここでは SOCK を挙げておこう。雨・霰と降らせるのは HAIL である。どの道，手段が明確でなくなるが，強く打つ SMITE，打ちのめす BUFFET，打ち負かす TROUNCE も挙げておこう。

これらの為には肘関節を伸ばさざるを得ないが，ボクシングやフェンシングで突くのは LUNGE である。手に何か持って差し出すのは PROFFER，腕だけでなく身体の一部を差し出すのは GIVE である。ついでながら，全身をも対象にして，投げ出すのは THROW である。腕 ARM は武装する意を持つが，両腕でならば，愛の抱擁も可能である。その際，相手がサッと身を交わせば，自分で腕を組む，あるいは手を組むことにはならないか。どれも FOLD が適用されるが，ついでながら，腕や足を組むことには，組み方によっては CROSS も適用され得る。

《下肢》 脚 LEG は急いで歩いたり，走る意を持つ。足の指 toes を対象に STEP，TREAD が適用されると，人の足を踏んで怒らせることになるが，共に，歩く意を持つ。前者は，この様に踏みつける意も持つが，片足を一歩出すことを強調，後者は，それを踏みつけることを強調，そして，いくつかの類似表現がある[16]。ここでは，それぞれを STEP 系，TREAD 系と呼び，大胆に，押せる所まで押してみよう。

大股で威張って歩いたり，コッソリ近寄る STALK は，STEP 系の代表，

Hosei University Repository

そこで，威張って気取って歩く PRANCE，見せびらかして歩く PARADE が仲間となり，対極的に，歩調を乱さずシズシズと歩く SWEEP，気取って小股で歩く MINCE も加えられ得る。そして，見栄を張り，威張る SWANK へとつながって行かないだろうか。

一方，コッソリ近寄ることは，相手が動けば追跡することにもなり，一般的には FOLLOW が適用されることか。踵 HEEL は，すぐ後に付いて行く意を持ち，同様に，TAIL もここに加えられ得る。付き纏うことにもなり，追い回す CHIVVY，そして，特に偉い人を対象に DANGLE も加えられ得る。爪先 TIPTOE は，足音を忍ばせて歩く意で，踵との対立で，敢えて，ここに記しておこう。

コッソリ気付かれない様にということでは，密かに見張る SPY に，覗き回る PRY を加え，コソコソ覗き回る SNOOP が挙げられる。コソコソ漁り回る PROWL に，そして最早，コソコソではないだろう，くまなく捜し回る COMB，くまなく漁り回る SCOUR，特に食料に関してなら FORAGE が加えられ得る。掻き集めるのは[17]，くすねる意も持つ SCROUNGE で，襲撃までも暗示しつつ荒し回る MARAUD，そして，略奪する意を持つ RANSACK につながって行かないだろうか。

また，「気付かれない様」には，逃げることにも結びつき SKULK が挙げられる。更に，それは素早いことを暗示，素早く逃げるのは，掛け出す意も持つ SCOOT，走り回る意も持つ SCAMPER である。そして，行方を晦ますのは ABSCOND である。ついでながら，サッと動く WHISK も目の前からは，急に去る意となるが，サッと疾走するのは SCUD，SPEED で，突進するのは RUSH，一直線には ROCKET である。

一方，TREAD 系は，その踏みつける音から，対極をなす，ドスンドスンと歩く POUND と，ソッと踏み固め歩く PAD を挙げておこう。そして，コソコソとか，コッソリとは大違い，セッセと励む PLY，精出す SLOG，骨を折っての FAG が加わり，PLOW，PLUG もコツコツ遣ることで仲間，アクセクすることも暗示する TOIL，DRUDGE につながるか。

具体的には，水の中を歩いて渡る WADE に，泥水を撥ねかしながら歩く SLOSH，更には，逆らって進む STEM が挙げられる。その動きを話題にすれば，ジリジリ進む INCH，それも斜めには EDGE，ノロノロぎこちなくは，艀の意も持つ BARGE である。尋常ならざる動きも含まれ，ここでは，

Hosei University Repository

ためらいながらのHALTを挙げておこう。よろめきながらはLURCH，それも，ときに足を引き摺ってならSHAMBLE，そのことでノロノロ進むのはDRAGである。

そして，塞ぎ込んで歩くMOPE，ボンヤリ眺めながらのMOON，ブラブラと，散歩を暗示するSAUNTERが加わり得る。唯々，ほっつき歩くのはTRAIPSE，それでも楽しみを求めてはGADで，特に，異性とならGALLIVANTである。一方，PERAMBULATEは，ゆっくり巡察する意を持ち，巡回するのはPATROL，偵察するのはSCOUTであるが，CRUISEには，更に，唯々，漫遊する意がある。

ま と め

身体は動く様に出来ていて，動かせるのは良いけれど，特に手足は，その分だけ余計な損傷を受ける[18]。骨折や脱臼は別としても，挫くことはある。捻挫するのはSPRAINで，その原因を説明することにもなり得るTWIST，WRENCHも適用されるが，筋を違える程度のこともある。筋を伸ばすのはPULLで，違えるCRICKは，痙攣する意も持つ。STRAINも，ここに加えられ得るが，元来，筋肉などを緊張させることであり，極度の酷使を暗示，目などを痛める意も持つ。

痛みが走るのはSHOOTであるが，打撲で痣を作るのはBRUISE，傷つけるのはWOUND，擦り剝くのは，ここではSKINだけを挙げておこう。火傷するのは，熱湯などでならSCALD，その他でならBURNで，後者は，ヒリヒリ痛み，火照る意も持つ。一方，寒さなどで皸が切れるのはCHAPである。そして，何故にか，発疹を生じさせるのはERUPTである。

手足が腫れるのはSWELL，水疱などが脹れ上がるのはRISE，水脹れや火脹れになったり，豆を作るのはBLISTERである。炎症で腫れ上がるのはINFLAME，出来物などが化膿してならGATHERである。そして出血するのはBLEED，ついでながら，止血するのはSTANCH，傷口が痂になるのはSCAB，傷が治って跡が残るのはSCARである。

健康そうに小麦色に日焼けするのはTANであるが，炎症を起こし，ヒリヒリする程であれば，やはり(SUN-)BURNである。その結果，蛇の様に脱皮するのはSHEDであるが，その時，きれいになっても，後々，シミや雀斑を

Hosei University Repository

生じさせることになるらしい。FRECKLE が適用される。

ついでながら，身体を鍛えることには，鋼などを強化すべく焼き入れ，焼き戻しをする TEMPER，ANNEAL が適用されるが，文字通りに，ニュアンスの異なる TOUGHEN，STRENGTHEN，HARDEN 更には FORTIFY も加えられ得る。これらが肉体だけでなく精神を鍛える意を持つことは言うまでもない。

《注》

(1) 声の表情に関しては「音を連想させる英語動詞群の意味分析」の『人間的』の《言語》も見られたい。
(2) 耳に関してのまとまった言及は，本稿ではない。
(3) 遅ればせながら，基本的なことは『はじめに』記した「KNOW 及び THINK に」を見られたい。
(4) 喜怒哀楽に関する動詞群の実例は『はじめに』に記した「五感他の」の『感覚』の《喜怒哀楽》を見られたい。精神的変化を生じさせる意の他動詞群を良く検討してみた結果が，分散・拡大版「精神的変化だけでなく」である。
(5) その他の「手入れ」に関しても，他の意味場に属すること，本稿を通じて，なるべく触れない様にした。
(6) 『はじめに』記した「LOOK と SEE を」を見られたい。
(7) これ以降の顔の表情に関して，基本的なことは『はじめに』記した「五感他の」の「表情」を見られたい。
(8) 泣き笑いに関しては『はじめに』記した「SPEAK と TALK を」の『前言語』の《CRY・LAUGH》と『まとめ』を見られたい。
(9) 基本的なことは『はじめに』記した「SPEAKとTALK を」と本稿の注(1)も見られたい。
(10) 飲食は『はじめに』記した「口・手・足から」の『口』を，賞味は「五感他の」の『感覚』を見られたい。
(11) 『はじめに』記した日本語の五体の説明と比較されたい。
(12) 日本語では，臍下丹田が元気の集まる所と言われている。
(13) 平衡感覚は，ときに，第五感覚とも言われ，感覚器は内耳にある。
(14) 『はじめに』記した「口・手・足から」の『手』と「動かすこと及び物理的変化を」を見られたい。
(15) 『はじめに』記した「DO に誘引される」を見られたい。
(16) 『はじめに』記した「口・手・足から」の『足』の《移行》と「動くことを」の『移動』の《WALK・TREAD・STEP》を見られたい。
(17) 本稿の《上肢》で既述した通り，PICK の拡大版と言っても良いか。
(18) 『はじめに』記した「動かすこと及び物理的変化を」の『物理的変化』と「好意的及び非好意的だけでない」の『肉体表現』の《敵意》を見られたい。